

⑨中学校における各変数の分散分析—地域間—

等分散性の検定

	Levene 統計量	自由度1	自由度2	有意確率
教科学力				
総合	2.186	3	33	.108
他者を受容すること	.640	3	33	.595
他者から受容されること	1.170	3	33	.336
学ぼうとする意欲	.368	3	33	.777
生活習慣	.640	3	33	.594
節度ある学校生活	.403	3	33	.752
自己効力感	.669	3	33	.577
学校生活の充実度	2.021	3	33	.130
喫煙				
経験	.609	3	33	.614
喫煙				
日数	3.302	3	33	.032
喫煙量				
現在の	3.136	3	33	.038
状態	3.314	3	33	.032
禁煙				
意識	3.277	3	33	.033
家族				
環境	1.618	3	33	.204
親しい				
友人	1.987	3	33	.135
喫煙				
意識1	.206	3	33	.891
喫煙				
意識2	1.379	3	33	.266
喫煙				
教育	.554	3	33	.649

平均値同等性の耐久検定

		統計 ^a	自由度1	自由度2	有意
教科学力 総合	Welch	5.287	3	16.958	.009
他者を受容すること	Welch	.431	3	18.101	.734
他者から受容されること	Welch	.449	3	17.908	.721
学ぼうとする意欲	Welch	.282	3	18.265	.838
生活習慣	Welch	.997	3	17.928	.417
節度ある学校生活	Welch	.599	3	18.158	.624
自己効力感	Welch	.366	3	18.156	.778
学校生活の充実度	Welch	.791	3	17.106	.515
喫煙	Welch	3.407	3	17.909	.040
喫煙	Welch	2.038	3	17.017	.147
喫煙量	Welch	2.756	3	16.920	.074
現在の	Welch	2.244	3	17.519	.119
禁煙	Welch	2.139	3	17.269	.132
家族	Welch	7.097	3	17.597	.003
親しい	Welch	.924	3	17.270	.450
喫煙	Welch	1.612	3	18.201	.221
喫煙	Welch	1.843	3	17.736	.176
喫煙	Welch	.516	3	17.886	.676

a. 漸近的 F 分布

分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
教科学力 総合	グループ間	396.287	3	132.096	7.717	.000
	グループ内	564.910	33	17.118		
	合計	961.197	36			
他者を受容すること	グループ間	.005	3	.002	.433	.731
	グループ内	.117	33	.004		
	合計	.122	36			
他者から受容されること	グループ間	.009	3	.003	.473	.703
	グループ内	.203	33	.006		
	合計	.212	36			
学ぼうとする意欲	グループ間	.004	3	.001	.236	.871
	グループ内	.197	33	.006		
	合計	.201	36			
生活習慣	グループ間	.013	3	.004	1.096	.365
	グループ内	.130	33	.004		
	合計	.143	36			
節度ある学校生活	グループ間	.008	3	.003	.683	.569
	グループ内	.133	33	.004		
	合計	.141	36			
自己効力感	グループ間	.002	3	.001	.316	.814
	グループ内	.057	33	.002		
	合計	.059	36			
学校生活の充実度	グループ間	.054	3	.018	.733	.540
	グループ内	.806	33	.024		
	合計	.860	36			
喫煙 経験	グループ間	.020	3	.007	3.043	.042
	グループ内	.073	33	.002		
	合計	.093	36			
喫煙 日数	グループ間	.287	3	.096	.857	.473
	グループ内	3.686	33	.112		
	合計	3.974	36			
喫煙量	グループ間	.459	3	.153	1.163	.339
	グループ内	4.338	33	.131		
	合計	4.797	36			
現在の 状態	グループ間	.194	3	.065	.895	.454
	グループ内	2.387	33	.072		
	合計	2.582	36			
禁煙 意識	グループ間	.273	3	.091	.888	.457
	グループ内	3.381	33	.102		
	合計	3.654	36			
家族 環境	グループ間	.064	3	.021	5.565	.003
	グループ内	.126	33	.004		
	合計	.189	36			
親しい 友人	グループ間	.022	3	.007	1.191	.328
	グループ内	.199	33	.006		
	合計	.221	36			
喫煙 意識1	グループ間	.006	3	.002	1.711	.184
	グループ内	.039	33	.001		
	合計	.045	36			
喫煙 意識2	グループ間	.027	3	.009	2.340	.091
	グループ内	.126	33	.004		
	合計	.153	36			
喫煙 教育	グループ間	.017	3	.006	.537	.660
	グループ内	.355	33	.011		
	合計	.372	36			

⑩中学校における各変数の分散分析—学校選択間—

等分散性の検定

	Levene 統計量	自由度1	自由度2	有意確率
教科学力				
総合	.746	1	32	.394
他者を受容すること	1.775	1	32	.192
他者から受容されること	.975	1	32	.331
学ぼうとする意欲	.455	1	32	.505
生活習慣	.806	1	32	.376
節度ある学校生活	2.084	1	32	.159
自己効力感	1.008	1	32	.323
学校生活の充実度	7.326	1	32	.011
喫煙				
経験	4.518	1	32	.041
喫煙				
日数	3.229	1	32	.082
喫煙量	4.049	1	32	.053
現在の				
状態	2.713	1	32	.109
禁煙				
意識	2.741	1	32	.108
家族				
環境	.584	1	32	.451
親しい				
友人	.060	1	32	.809
喫煙				
意識1	.022	1	32	.882
喫煙				
意識2	4.327	1	32	.046
喫煙				
教育	.223	1	32	.640

平均値同等性の耐久検定

		統計 ^a	自由度1	自由度2	有意
教科学力 総合	Welch	.183	1	23.876	.672
他者を受容すること	Welch	.230	1	25.629	.635
他者から受容されること	Welch	.108	1	28.376	.745
学ぼうとする意欲	Welch	.022	1	28.738	.883
生活習慣	Welch	.633	1	25.761	.434
節度ある学校生活	Welch	.377	1	25.580	.545
自己効力感	Welch	.114	1	26.745	.739
学校生活の充実度	Welch	.314	1	20.287	.581
喫煙	Welch	5.805	1	30.316	.022
喫煙	Welch	2.343	1	18.918	.142
喫煙量	Welch	2.424	1	19.365	.136
現在の	Welch	2.454	1	19.207	.134
禁煙	Welch	1.618	1	19.056	.219
家族	Welch	5.541	1	27.706	.026
親しい	Welch	.759	1	27.588	.391
喫煙	Welch	.355	1	28.844	.556
喫煙	Welch	.067	1	29.950	.797
喫煙	Welch	.033	1	28.620	.857

a. 漸近的 F 分布

分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
数科学力 総合	グループ間	5.228	1	5.228	.200	.658
	グループ内	837.329	32	26.167		
	合計	842.557	33			
他者を受容すること	グループ間	.001	1	.001	.246	.623
	グループ内	.118	32	.004		
	合計	.119	33			
他者から受容されること	グループ間	.001	1	.001	.111	.741
	グループ内	.206	32	.006		
	合計	.207	33			
学ぼうとする意欲	グループ間	.000	1	.000	.022	.882
	グループ内	.200	32	.006		
	合計	.201	33			
生活習慣	グループ間	.003	1	.003	.673	.418
	グループ内	.137	32	.004		
	合計	.140	33			
節度ある学校生活	グループ間	.002	1	.002	.402	.530
	グループ内	.138	32	.004		
	合計	.139	33			
自己効力感	グループ間	.000	1	.000	.120	.732
	グループ内	.058	32	.002		
	合計	.058	33			
学校生活の充実度	グループ間	.010	1	.010	.359	.553
	グループ内	.848	32	.026		
	合計	.857	33			
喫煙 経験	グループ間	.011	1	.011	5.196	.029
	グループ内	.070	32	.002		
	合計	.081	33			
喫煙 日数	グループ間	.215	1	.215	1.855	.183
	グループ内	3.701	32	.116		
	合計	3.915	33			
喫煙量	グループ間	.265	1	.265	1.928	.175
	グループ内	4.404	32	.138		
	合計	4.670	33			
現在の 状態	グループ間	.147	1	.147	1.949	.172
	グループ内	2.415	32	.075		
	合計	2.562	33			
禁煙 意識	グループ間	.138	1	.138	1.283	.266
	グループ内	3.433	32	.107		
	合計	3.571	33			
家族 環境	グループ間	.026	1	.026	5.750	.022
	グループ内	.143	32	.004		
	合計	.169	33			
親しい 友人	グループ間	.005	1	.005	.789	.381
	グループ内	.209	32	.007		
	合計	.214	33			
喫煙 意識1	グループ間	.000	1	.000	.363	.551
	グループ内	.043	32	.001		
	合計	.044	33			
喫煙 意識2	グループ間	.000	1	.000	.060	.808
	グループ内	.121	32	.004		
	合計	.122	33			
喫煙 教育	グループ間	.000	1	.000	.034	.855
	グループ内	.328	32	.010		
	合計	.329	33			

等分散性の検定

平均増減G		Levene 統計量	自由度1	自由度2	有意確率
1.00	教科学力	.846	3	15	.490
	総合				
	学校生活の充実度	2.088	3	15	.145
	喫煙				
	経験	.645	3	15	.598
	家族				
	環境	1.847	3	15	.182
	親しい				
2.00	友人	2.576	3	15	.093
	喫煙				
	教育	2.077	3	15	.146
	教科学力	1.300	3	11	.323
	総合				
	学校生活の充実度	5.680	3	11	.013
	喫煙				
	経験	3.987	3	11	.038
家族					
環境	3.452	3	11	.055	
親しい					
友人	6.428	3	11	.009	
喫煙					
教育	.737	3	11	.552	

分散分析

平均増減G			平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
1.00	教科学力 総合	グループ間	97.507	3	32.502	2.212	.129	
		グループ内	220.383	15	14.692			
		合計	317.890	18				
	学校生活の充実度	グループ間	.051	3	.017	1.427	.274	
		グループ内	.178	15	.012			
		合計	.229	18				
	喫煙 経験	グループ間	.014	3	.005	1.699	.210	
		グループ内	.040	15	.003			
		合計	.054	18				
	家族 環境	グループ間	.022	3	.007	2.295	.119	
		グループ内	.048	15	.003			
		合計	.069	18				
	親しい 友人	グループ間	.034	3	.011	2.586	.092	
		グループ内	.066	15	.004			
		合計	.101	18				
	喫煙 教育	グループ間	.022	3	.007	.737	.546	
		グループ内	.147	15	.010			
		合計	.168	18				
	2.00	教科学力 総合	グループ間	272.994	3	90.998	4.062	.036
			グループ内	246.445	11	22.404		
			合計	519.439	14			
学校生活の充実度		グループ間	.216	3	.072	1.966	.178	
		グループ内	.402	11	.037			
		合計	.618	14				
喫煙 経験		グループ間	.006	3	.002	2.148	.152	
		グループ内	.010	11	.001			
		合計	.016	14				
家族 環境		グループ間	.026	3	.009	2.002	.172	
		グループ内	.048	11	.004			
		合計	.073	14				
親しい 友人		グループ間	.012	3	.004	.472	.708	
		グループ内	.096	11	.009			
		合計	.108	14				
喫煙 教育		グループ間	.037	3	.012	1.096	.392	
		グループ内	.123	11	.011			
		合計	.160	14				

平均値同等性の耐久検定

平均増減G			統計 ^a	自由度1	自由度2	有意
1.00	教科学力 総合	Welch	1.361	3	7.290	.328
	学校生活の充実度	Welch	2.066	3	7.512	.188
	喫煙	Welch	2.004	3	7.457	.197
	家族	Welch	2.334	3	7.020	.160
	親しい	Welch	2.019	3	7.473	.195
	喫煙	Welch	1.509	3	7.163	.292
2.00	教科学力 総合	Welch	2.646	3	5.310	.155
	学校生活の充実度	Welch	3.452	3	4.872	.110
	喫煙	Welch	2.301	3	4.846	.198
	家族	Welch	1.974	3	5.828	.222
	親しい	Welch	.781	3	5.076	.553
	喫煙	Welch	.948	3	5.002	.484

a. 漸近的 F 分布

- 了 -

分担研究報告書

参加と合意に基づくたばこ対策の推進のための社会的基盤に関する研究

研究分担者	松本 安生	神奈川大学人間科学部准教授
研究協力者	三星 宗雄	神奈川大学人間科学部教授
	渡部 照洋	神奈川大学経済学部教授
	坪井 雅史	神奈川大学外国語学部准教授
	柴田 直子	神奈川大学法学部准教授
	師岡 淳也	神奈川大学外国語学部助教
	杉本 崇	東京大学大学院博士後期課程

研究要旨：たばこ対策推進のための社会的基盤の一つとして、喫煙リスクの情報提供を通じて、市民の適切なリスク認知とそれに基づく意思決定を支援する働きかけ（普及啓発）が重要である。そこで本研究では神奈川大学を対象とした喫煙リスクの情報提供に関する社会実験を行い、喫煙リスクをより適切に認識し、態度変容を促す効果について検証を行った。このために、パンフレット、掲示板的ポスター、学食の立体ポスターの3つの手法により喫煙リスクの情報提供を行い、その1ヵ月後に、新入生及び2年生を主に対象としたアンケート調査を行った。この結果、掲示板ポスター・卓上立体ポスターによる喫煙リスクに関する情報提供は、数量的な喫煙のリスク認識そのものに対しては効果が見られなかったが、定性的な喫煙リスクに関する信念に対してはある程度の効果があることなどが明らかになった。

A. 研究目的

参加と合意に基づくたばこ対策の推進のための社会的基盤については、平成17年度より2年間にわたり、路上喫煙禁止条例などを制定する自治体（千代田区、武蔵野市）へのヒアリング調査や英国たばこ規制に関する規制インパクト分析の文献調査などを通じて、主としてたばこ対策の立案・決定段階における社会的基盤に関する研究を行ってきた。

こうした参加と合意に基づくたばこ対策が実際に社会に受け入れられ、その取り組みが広く普及するためには、さらに実施段階における社

会的基盤についても検討を行うことが必要である。実施段階における社会的基盤としては、まず、市民サイドにおいて一人ひとりが自己及び社会に対して長期的で、不確定性のある喫煙のリスクを適切に認識し、その評価に基づいた意思決定を行う意識（合理的思考）が重要である。また、行政サイドにおいても、喫煙リスクの情報提供を通じて、市民の適切なリスク認知とそれに基づく意思決定を支援する働きかけ（普及啓発）が重要だと考えられる。

このため、2007度には人々の合理的思考と喫煙リスクに対する認知や行動との関係について

明らかにすることを目的として、神奈川大学大学生（主として1年生）を対象としたアンケート調査を行った。ここで得られた889名（このうち1年生815名）の回答をもとに、喫煙に対するリスク認知及び喫煙行動の実態と合理的思考に関する性格特性の把握を行い、これらの間の関連について分析を行った。この結果、喫煙者の肺がんによる死亡の危険性（対非喫煙者）について回答者の平均値（5.7倍）と既存研究からの知見（4.5倍）との間には大きな差が見られなかった。しかし、他の物質（ダイオキシン類、BSE、光化学スモッグ）の危険性ととの比較では喫煙のリスクは小さく認知され、とりわけ能動喫煙のリスクはかなり小さく認知されていることが分かった。また、喫煙のリスク認知において喫煙者の方が、非喫煙者よりもリスクを低く認知し、喫煙についての間違えた信念を信じていた。ただし、喫煙者においても物事をじっくり考え、分析的・合理的な思考を採用する傾向のある人ではリスク認知も高くなり、間違えた考えに対しても否定する人が多くなっていることなどを明らかにした。

これらことから、分析的・合理的な思考を採用し易い状況において、喫煙のリスクに関する情報提供を行えば、非喫煙者に対しては継続的な喫煙回避の意思決定を支援し、喫煙者に対しては禁煙への関心を高めることが可能だと考えられる。

そこで、2008年度は昨年度の成果をもとに、分析的・合理的な思考を採用し易い状況において、喫煙リスクに関する情報提供手法を設計するとともに、神奈川大学を対象とした社会実験を行い、喫煙のリスクをより適切に認識し、行動変容を促す効果について検証を行った。

B. 研究方法

【調査の方法】

神奈川大学横浜キャンパスを対象にして、喫煙のリスクに関する情報提供を行った。具体的には、以下の3つの手法により情報提供を行った。①喫煙のリスクに関するパンフレットを作

成し、2008年4月の健康診断時に約2000枚を配布した（図1）。②喫煙のリスクに関するポスターを作成し、約30枚を屋内外の掲示板に掲示した（2008年11月～）（図2～4）。③喫煙のリスクに関する卓上立体ポスターを作成し、約200個を大学生協学食のテーブルに設置した（2008年11月～）（図5～7）。

これらの情報提供による効果を検証するため、2008年12月～2009年1月にかけて学生へのアンケート調査を行った。アンケート調査については昨年度と同様な質問を、新入生及び2年生が主に履修する科目で、本調査への協力について承諾をいただいた教員の協力のもと、講義終了後の20分程度の時間を利用したアンケート調査を行った。

【調査項目の設定】

アンケート調査は、①喫煙行動の実態について、②喫煙のリスク認知および喫煙に関する信念についての意見、③情報提供手法の認識について、④合理的思考に関する性格特性、④個人属性、の5つのパートによって構成した。

喫煙行動の実態については、既存の調査などを参考に、ニコチン依存度なども算出できる質問項目とした。

喫煙のリスク認知については、喫煙者（または受動喫煙者）が非喫煙者（または非受動喫煙者）に対して肺がん及び心筋梗塞になる危険性がどの程度高いかを回答してもらった。これらについては科学的知見がある程度明確であり、リスク認知の高低を測定する尺度となるだけでなく、適切なリスク認知を測定する尺度にもなると考えられる。

また、喫煙のリスク認知には喫煙に対する信念とも関連が強いと考えられるため、「喫煙と肺がんの関係は科学的に明らかになっている」、「タバコはストレス解消に効果のある物質が含まれている」などの考えに対する意見を聞いた。

喫煙リスクの情報提供手法の認識については、パンフレット、ポスター、卓上立体ポスターのそれぞれについてカラー写真を用いて例示し、その認識の程度をたずねた。

合理的思考に関する性格特性については、二重プロセス理論に基づいた質問項目を設定した。

二重プロセス理論とは、人間の推論過程には分析的・合理的なプロセスと全体的・経験的なプロセスの二つのルートがあるとする理論である。分析的・合理的なプロセスとは、意識的かつ論理的な思考であり、言語や数字による現実の理解や出来事の価値判断に基づく行動が特徴である。これに対して、全体的・経験的なプロセス(system1)とは、自動的で感情的な思考である。イメージや比喻による現実の理解や出来事の「感じ」に基づく行動が特徴である。

この二重プロセス理論に基づき、いずれのプロセスを重視するかで思考に関する性格特性の測定を行った。測定尺度については既存研究から、NC尺度、FI尺度、AOT尺度の3種類を用いた。NC(Need for Cognition)尺度とは、物事をじっくり考える性質を測定する尺度であり、「私は解くべき難問に満たされた人生を好む」、「単純な問題よりも複雑な問題のほうが好きだ」などの19の質問項目から構成される。また、FI(Faith in Intuition)尺度とは、直感的に物事を考える性質を測定する尺度であり、「私の人に対する第一印象はほとんど正しい」、「私は私の勘を信じる」、「私は人が嘘をついたとき大体は見抜くことができる」など12の質問から構成される。さらに、AOT(Activity-openminded Thinking)尺度とは、分析的・合理的な思考を採用する度合いを測定する尺度であり、Flexible thinking, Dogmatism, Openness value, Categorical thinking, Belief identification, Counterfactual thinkingの6つの下位尺度で構成され、合計で41の質問項目から構成される。

最後に個人属性として、性別や年齢、学年、学部などについても聞いた。

【調査対象の選定】

喫煙によるリスクを適切に認識し、その評価に基づいた意思決定を行うこと(合理的判断)が最も重要となるのは、日常的に喫煙をすかどうかの判断においてである。常習喫煙者のほとんどが20歳までに喫煙を開始していることか

ら、未成年者における喫煙リスクの認知と喫煙行動との関連及び合理的判断に関する性格特性との関連について把握することが必要である。とりわけ、大学への入学はアルバイトや部活、飲み会などで友人や先輩から勧められる機会が増えるなどの他者の影響に、ひとり暮らしなどの環境要因も加わり、喫煙開始の大きな契機の一つになると考えられる(林, 2007)。

そこで本研究では大学1年生を調査対象とすることにした。このため、分担研究者が所属する神奈川大学において主として1年生が履修する科目で、本調査への協力について承諾をいただいた教員の協力のもと、講義終了後の20分程度の時間を利用したアンケート調査を行った。

また、昨年度調査からの変化を把握するため、今年度は大学2年生も対象とすることとした。このため、昨年度の調査において学部学生数に対する回答者の比率が高かった人間科学部及び外国語学部の2年生が主として履修する科目においても、本調査への協力について承諾をいただいた教員の協力のもと、講義終了後の20分程度の時間を利用したアンケート調査を行った。

調査はいずれも2008年12月～2009年1月に行った。

この結果、経済学部、法学部、外国語学部、人間科学部、工学部の5つの学部学生1213名からの回答を得た。このうち、最も回答者が多かったのは外国語学部の418名(35%)であり、次いで経済学部の333名(28%)、人間科学部の257名(21%)であった。各学部の回答者比率は図8に示す通りである。

(倫理面の配慮)

本研究は、公表された集計値の二次利用によるもので、個人情報とは扱わないため、倫理的問題はないと考えられる。

C. 研究結果

1. 単純集計結果

(1) 個人属性

回答があった1213名の内訳は男性が627名(52%)、女性が578名(48%)であった(図11)。また、対象として想定した1年生が732名(60%)

であり、2年生が374名(31%)であった(図9)。なお、年齢では未成年者が751名(62%)であった(図10)。

(2) 喫煙状況

回答者のうち「毎日吸っている」あるいは「時々吸う日がある」をあわせると常習的な喫煙者は、155名(13%)である。多くの学生(82%)が「吸ったことはない」と回答している(図12)。

喫煙経験者における喫煙本数は1日10本以下という回答者が65%であり、それほど多くない。また、喫煙期間については、喫煙経験者の約半数(47%)は1年未満で大学入学後に喫煙を開始しているが、残りの半数は1年以上であり、大学入学前から喫煙を開始していた学生も多いと考えられる。さらに、喫煙経験者でたばこを吸わずに1日を過ごすことが「とても難しい」または「難しい」とする回答は約3分の1(32%)であり、「やさしい」や「とてもやさしい」と回答した喫煙経験者とほぼ同じ程度であった(図13)。

(3) 喫煙のリスク認知

喫煙のリスク認知について、最初に喫煙者あるいは受動喫煙者が、非喫煙者あるいは非受動喫煙者に対して肺がんや心筋梗塞で死亡する危険性がどの程度高いかを回答してもらった。また、肺がん患者のうち喫煙が原因と考えられる患者の比率を回答してもらった。

この結果、喫煙者の肺がんによる死亡の危険性(対非喫煙者)については、回答が100倍以上の外れ値を除いた場合の平均値は約5.2倍で、既存研究における実際の喫煙者の肺がんによる死亡の危険性(4.5倍)と大きな差が見られなかった。また、回答の分布は図14に示し通り、1.6~2倍の回答が最も多いものの、1~5倍の間に同じ程度にばらついていることが分かる。

次に、喫煙者の心筋梗塞による死亡の危険性や受動喫煙者の肺がんによる死亡の危険性は既存研究では2倍程度であるが、外れ値を除いた回答者の平均値は3.8~4.2倍程度で高いものであった。ただし、回答者の分布では既存研究の知見に近い2.5倍までの回答が約半分を占めて

いることが分かる(図15~16)。

(4) 喫煙に対する信念

喫煙に関するいくつかの信念に対しての意見(「そう思う」~「そう思わない」)を聞いた。

この結果、「喫煙と肺がんの関係は科学的に明らか」や「受動喫煙による害は科学的に明らか」などの既存研究からと妥当と考えられる信念については、「そう思う」あるいは「ややそう思う」とする肯定的な意見が大部分を占めているが、「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」という妥当な信念については、肯定的な意見が約60%程度とやや少なくなっている(図17)。

これに対して既存研究からは妥当ではないと考えられる信念のうち、「喫煙はある種のがんを予防する効果がある」、「タバコには頭の働きを高める物質が含まれている」、「喫煙は健康に重大な影響を与えない」という研究も数多くあるなどの信念については「そう思わない」あるいは「あまりそう思わない」などの否定的意見が多くを占めているが(図18)、「タバコにはストレス解消に効果のある物質が含まれている」とする信念に対しては「そう思う」あるいは「ややそう思う」とする肯定的な意見が半数を超え、「決心さえすれば誰でも喫煙は止められる」とする信念に対しては意見が分かれている(図19)。

これらのことから、ストレス解消のためにたばこを吸うという考えが喫煙者だけでなく非喫煙者にも受容されていることや、喫煙の依存性に対する認識については楽観的な意見があることが明らかになった。

(5) 情報提供手法の認識

喫煙リスクの情報提供を目的として行った①ポスターの掲示、②卓上立体ポスターの設置、③パンフレットの配布、のそれぞれについて回答者がどの程度それらの情報を見たことがあるかを聞いた。

この結果、2008年4月の健康診断時に配布したパンフレットについてはほとんどが「見たことがない」あるいは「読んでいない」という回答であったが、ポスターについては約24%の回答者が、卓上立体ポスターについては約33%の

回答者が「ざっと読んだ」あるいは「じっくり読んだ」と回答し、およそ3分の1程度の学生にこれらの手法により情報の伝達がなされていたことが明らかになった(図19)。

2. 提供手法の認識とリスク認知との関連分析

前述した喫煙リスクの情報提供手法のうち認識が高い「掲示板のポスター」及び「卓上の立体ポスター」のそれぞれについて、喫煙のリスク認知及び喫煙に対する信念への意見との関連について分析を行った。

この結果、喫煙のリスク認知の高低とこれら2つの情報提供手法に対する認識との間には統計的に有意な関連はみられなかった。

これに対して、いくつかの喫煙に対する信念への意見については、これら2つの情報提供手法に対する認識との間に統計的に有意に関連がみられた。

まず、掲示板のポスターに対する認識と関連がみられたのは、「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」、「喫煙は健康に重大な影響を与えないという研究も数多くある」、「決心さえすれば誰でも喫煙は止められる」の3つの信念に対する意見であった(図20、図21)。これらのうち、「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」とする信念については、掲示板のポスターを「じっくり読んだ」または「ざっと読んだ」と回答した人のほうが、「見ていない」あるいは「見たことはあるが読んでいない」と回答した人に比べて、「そう思う」あるいは「ややそう思う」と回答する人が多く、「どちらでもない」や「そう思わない」あるいは「あまりそう思わない」と回答した人が少なくっている(有意水準5%)。

また、「喫煙は健康に重大な影響を与えないという研究も数多くある」と「決心さえすれば誰でも喫煙は止められる」という信念に対する意見ではこれとは逆の関連がみられたが、これらの関連は弱いものであった。(有意水準10%)

一方、卓上の立体ポスターに対する認識と関

連がみられたのは、「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」、「喫煙は健康に重大な影響を与えないという研究も数多くある」、「食品中の化学物質に比べれば喫煙の害は小さい」の3つの信念に対する意見であった(図22)。

これらの信念のうち「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」に対しては、立体ポスターを「じっくり読んだ」または「ざっと読んだ」と回答した人のほうが、「見ていない」あるいは「見たことはあるが読んでいない」と回答した人に比べて、「そう思う」あるいは「ややそう思う」と回答する人が多く、「どちらでもない」や「そう思わない」あるいは「あまりそう思わない」と回答した人が少なくっている。また、「喫煙は健康に重大な影響を与えないという研究も数多くある」、「食品中の化学物質に比べれば喫煙の害は小さい」ではその逆の関連がみられた。ただし、これら3つの関連は弱いものであった。

(有意水準10%)

E. 結 論

学内の掲示板ポスター及び学食の卓上立体ポスターによる喫煙リスクに関する情報提供は、数量的な喫煙のリスク認識そのものに対しては効果が見られなかったが、定性的な喫煙リスクに関する信念に対してはある程度の効果があったと考えられる。特に、「タバコを習慣的に吸うこと自体が病気である」という信念に否定的あるいは中立的な意見に対して効果が見られた。

G. 研究発表

杉本崇・三星宗雄・坪井雅史・松本安生・師岡淳也・渡部照洋・柴田直子(2008) 推論の二重プロセス理論と喫煙に関する認知, 日本リスク研究学会第21回年次大会(関西大学)

【引用・参考文献】

林謙治(2007)「未成年者の喫煙実態状況に関する調査研究」平成18年度厚生労働科学研究費補助金研究報告書



図3 喫煙リスクに関するポスターの学内掲示(屋外：喫煙所周辺掲示板)



図4 喫煙リスクに関するポスターの学内掲示(屋内：講義室横掲示板)



図5 喫煙リスクに関する卓上立体ポスター[A面] (「知っておきたい喫煙のリスク」)



図6 喫煙リスクに関する卓上立体ポスター[B面] (「知っておきたい喫煙のリスク」)



図7 喫煙リスクに関する卓上立体ポスターの学内設置(大学生協食堂)

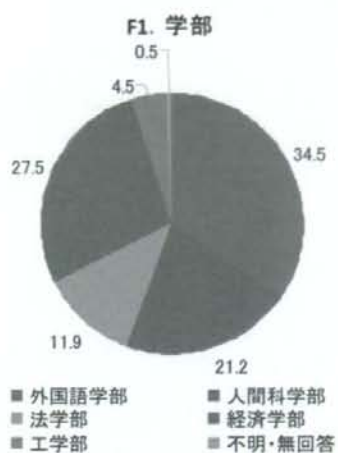


図8 回答者の属性 (学部)

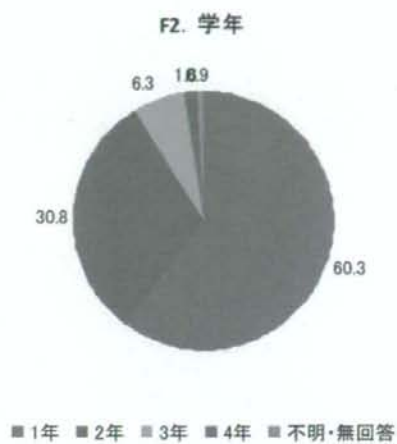


図9 回答者の属性 (学年)

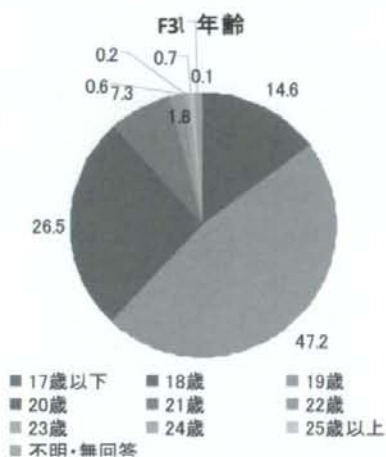


図10 回答者の属性 (年齢)

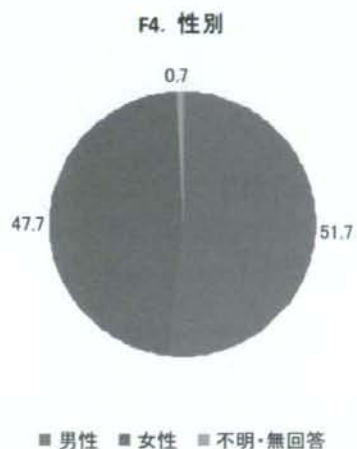


図11 回答者の属性 (性別)

問1. あなたは、タバコを吸いますか。



図 12 回答者の喫煙状況について

問4. タバコをまったく吸わずに、1日過ごすことは難しいですか(難しかったですか)。



図 13 回答者の禁煙に対する困難性

問7. タバコを吸わない人が肺がんになる確率を1とすると、タバコを吸う人が肺がんになる確率はどれぐらいだと思いますか？小数点第一位までの数字で教えてください。

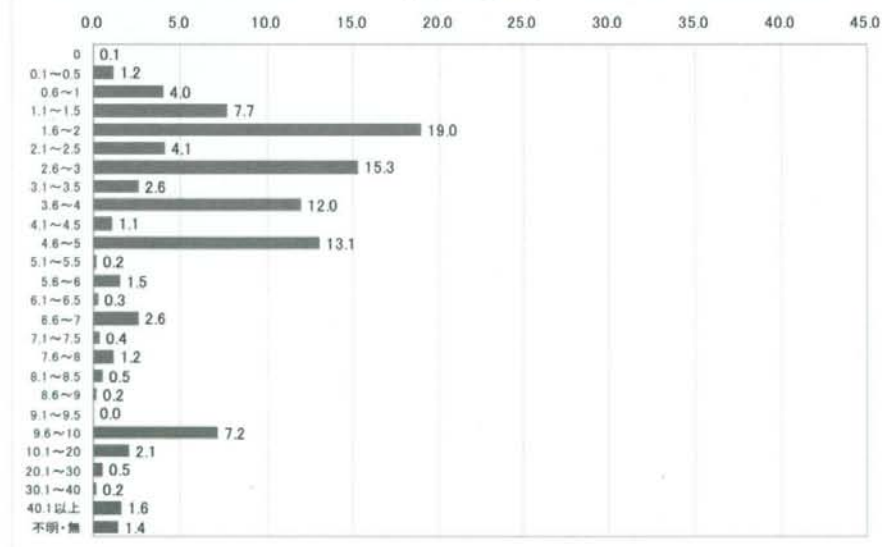


図 14 喫煙による肺がんリスクに対する認知

問8. タバコを吸わない人が脳卒中になる確率を1とすると、タバコを吸う人が脳卒中になる確率はどれくらいだと思いますか？

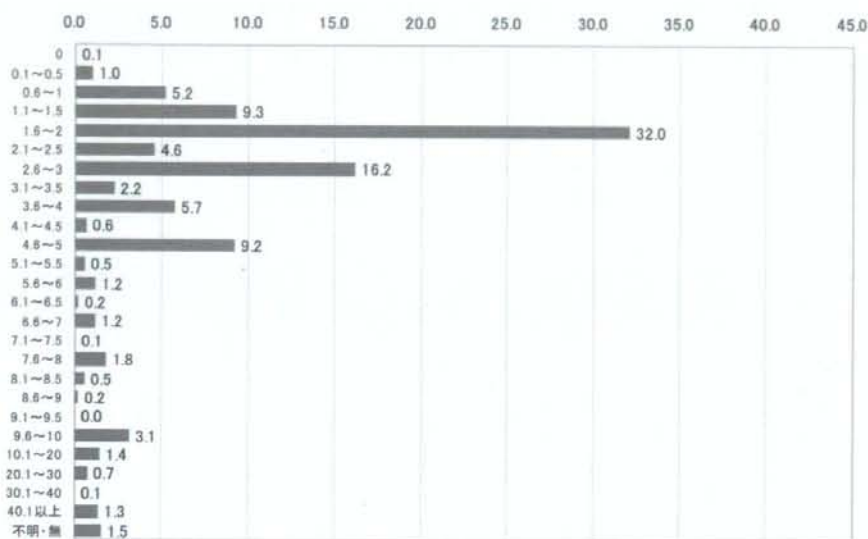


図15 喫煙による脳卒中リスクに対する認識

問9. 日常的に受動喫煙をしていない人が肺がんになる確率を1とすると、日常的に受動喫煙をしている人が肺がんになる確率はどれくらいだと思いますか？

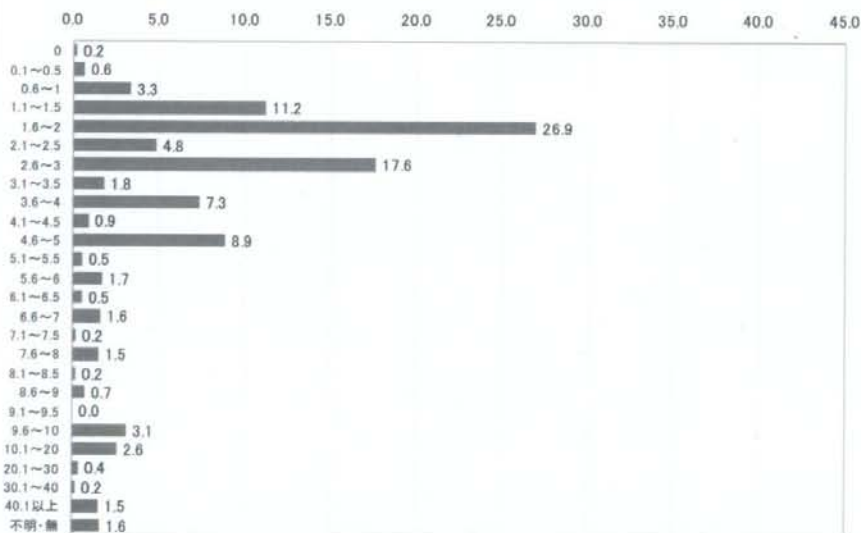


図15 受動喫煙による肺がんリスクに対する認識